

統合中学校の建設候補地の選定について



令和7年10月
有田町 学校教育課

01

経緯と現状の課題

02

4つの建設候補地

03

評価の考え方と比較検討

04

総合評価と結論

町立学校の現状と課題

本町の学校教育は、少子化の進行と施設の老朽化という2つの大きな課題に直面

● 少子化の進行

中学校生徒数は平成18年度の合併以降、継続的な減少傾向

学校名	2024年 (令和6年度)	2035年 (令和17年度)
有田中学校	生徒数262人 / 7学級	約185人 / 6学級
西有田中学校	生徒数242人 / 7学級	約160人 / 6学級
合計	生徒数504人	生徒数約345人

● 施設の老朽化

大規模改修等を行わずに使用を続けた場合、建物の寿命は一般に60～80年

学校名	建築年度(主な校舎)	築後経過年数(R6)	主な状況
有田中学校	1973年	約51年	老朽化が進行し、改修が必要な箇所が散見される。
西有田中学校	1963年	約61年	老朽化が著しく、抜本的な対策が急務

これまでの検討状況

適正な規模や配置に関する検討

町立学校適正規模適正配置審議

答申



有識者 保護者代表等



適正規模 : 小学校で12-18学級、中学校で9-15学級が適正
通時間間 : 町内のどこに住んでいても通学時間がおおむね1時間を超えない場所に学校があることが望ましい。



町としては、現在2つある中学校を統合し、生徒の通学利便性を考慮して町の中央近くに新たな学校を建設する方向で議論を進めている



建設候補地としてリストアップされている4地点

- 候補① 歴史と文化の森公園
- 候補② 清六交差点
- 候補③ 仏ノ原交差点
- 候補④ クリーンセンター跡下

現時点での評価結果についてまとめる

4地点の概要と主な懸念事項

① 歴史と文化の森公園



所在地： 原明、黒川
面積： 約103,200m²(すべて町有地)

主な懸念点

- ・敷地付近に傾斜が存在
- ・車両の出入り口が1カ所

② 清六交差点付近



所在地： 南原、仏ノ原
面積： 約125,800m²(私有地約3,600m²を含む)

主な懸念点

- ・主要道路から敷地まで70-80mという高低差
- ・敷地内自体の高低差
- ・造成に多額の費用(見込)

③ 仏ノ原交差点付近



所在地： 仏ノ原
面積： 約85,360m²(私有地約2,400m²を含む)

主な懸念点

- ・周辺道路の交通量が多
- ・大型トラックの出入り多
- ・暗渠化工事が必要
- ・用地取得の難易度高い

④ クリーンセンター跡地の下



所在地： 仏ノ原
面積： 約50,900m²(私有地約39,900m²を含む)

主な懸念点

- ・地下に基礎杭等の埋設物が存在する
- ・環境調査が必要
- ・造成に多額の費用見込

4つの評価の柱

利便性: 全生徒の通学負担の公平性効率性

生徒の日常に最も密接に関わる「**通学**」に着目

- 効率性** 全生徒の平均的な通学距離は短いか
- 公平性** 長距離通学を強いられる生徒の数は少ないか

評価手法・資料(義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令)

- ・行政区の中心から各候補地までの最短道路距離の算出
- ・中学校の通学距離「**おおむね6km以内**」を重要な評価基準として、満たしているか否かの比較



安全性: 災害リスクと通学路の環境

安全に**通学**でき、災害時にも安心して避難できる場所か

- 自然災害** 洪水、土砂災害に対する立地としての安全性
- 高低差** 通学路の地形的な危険性
- 交通環境** 交通量、大型車の往来、道路状況

評価手法・資料(ハザードマップ・既知の庁内各種情報、資料)

- ・ハザードマップ分析 各候補地の位置を照合
- ・庁内各種情報、資料を基に、現地の地形(高低差)周辺道路の交通量など**通学路の安全性の評価**



実現性: 事業の確実性と経済合理性

計画を**遅滞なく**、かつ**現実的なコスト**で進行可能か評価

- 難易度** 時間、経済的からみた用地取得の容易さ
- コスト** 造成工事の難易度とそれに伴うコスト
- 接続** 各種インフラとの接続について



評価手法・資料(既知の庁内各種情報、資料)

- ・候補地の所有者情報(**町有地か私有地か**)や地権者状況から評価
- ・造成の要否、高低差の状況、河川横断や地下埋設物の有無という情報から**造成工事の規模や特殊工事の必要性を評価**



周辺環境への配慮: 近隣住民との共存

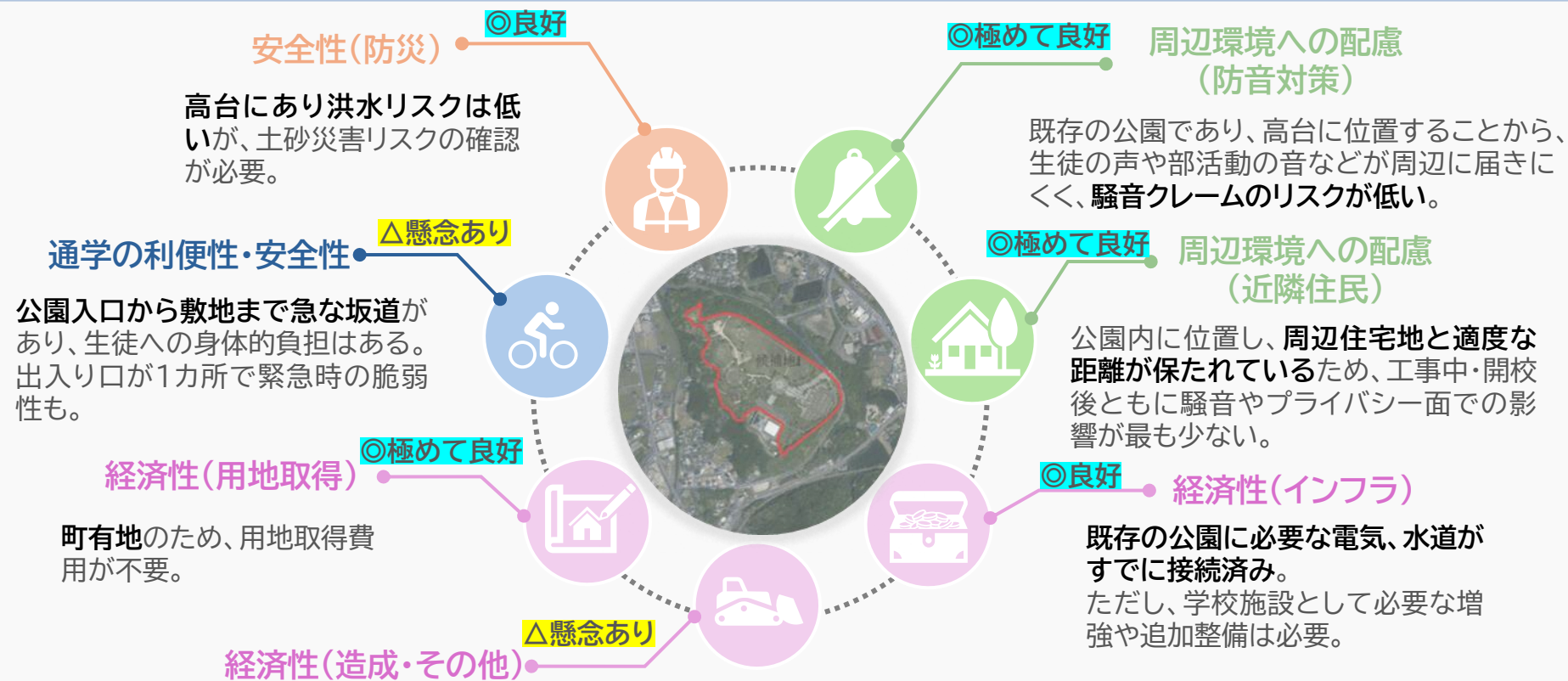
整備中及び整備後に学校運営が**近隣住民の生活環境**に与える影響

- 距離感** 周辺住宅地との距離は確保されているか
- 騒音** 生徒の声、吹奏楽等のクレーム問題への対策

評価手法・資料(既知の庁内各種情報、資料)

- ・候補地周辺の状況から、**周辺環境への配慮の必要性**や難易度を評価

歴史と文化の森公園



「遊びの広場」活用で費用抑制の可能性はあるが、施設全体を配置するには**周辺傾斜地の追加造成が必須**。段差解消の擁壁工事等で依然として高額な費用が見込まれる。

②

清六交差点付近



安全性(防災)

△懸念あり

防災性の評価は全候補地中、最低。
河川に隣接し、洪水リスクへの対策が必須。

通学の利便性・安全性

×重大な懸念

交通量が多く、特に大型トラックの往来が激しく、**通学の危険性が極めて高い。**

経済性(用地取得)

△懸念あり

事業者が利用中で、移転交渉を含め取得ハードルが高い。

経済性(造成・その他)

×重大な懸念

河川をまたぐための暗渠化工事という特殊で高額な工事が必要。

△懸念あり

周辺環境への配慮
(防音対策)

近接する住宅地等から騒音に関するクレームが発生する可能性が相対的に高く、高額な防音フェンスの設置など追加の対策が必要となる可能性がある。

△懸念あり

周辺環境への配慮
(近隣住民)

周辺に住宅や事業所が近接しており、影響が懸念されている。

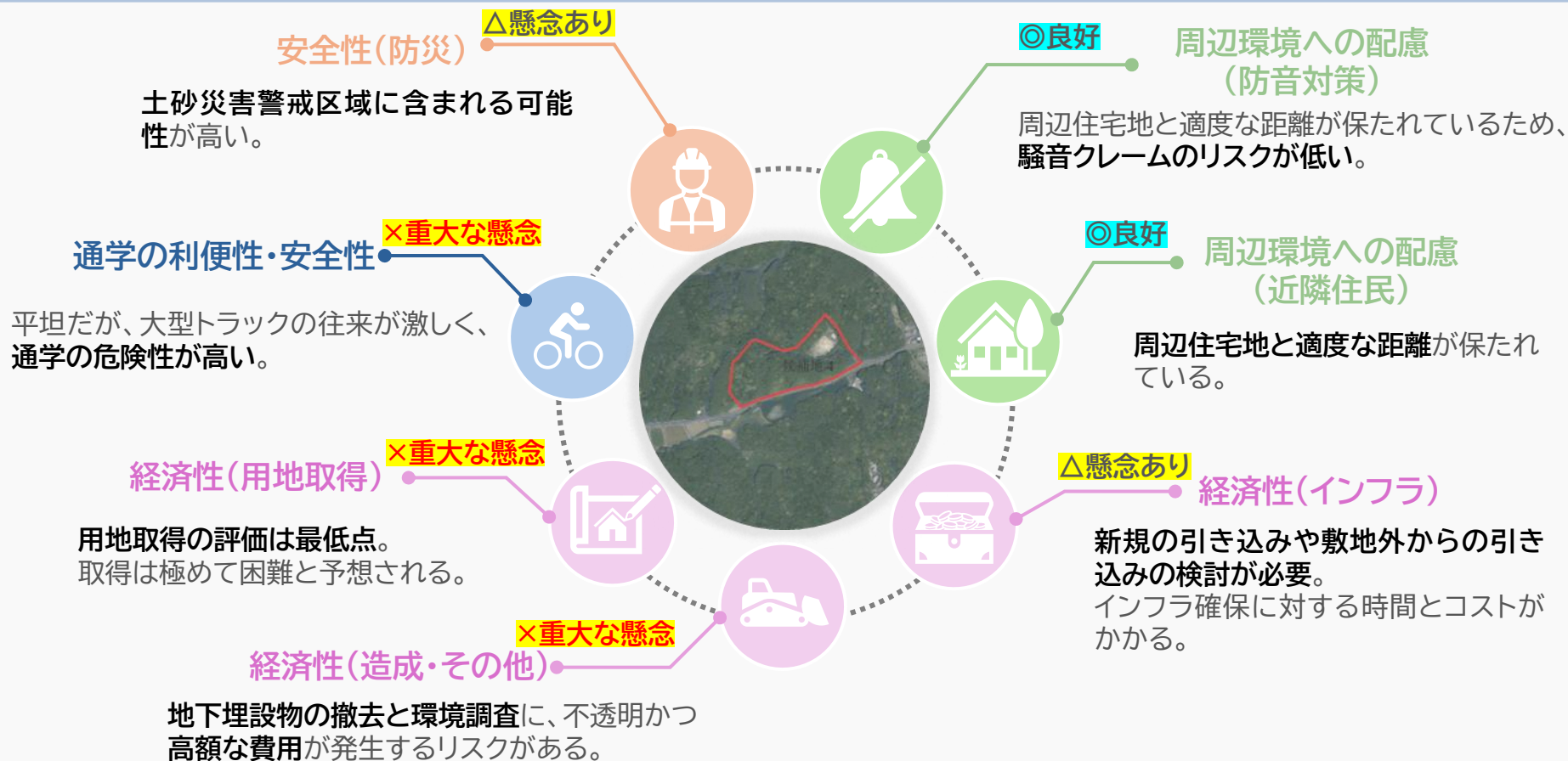
△懸念あり

経済性(インフラ)

新規の引き込みや敷地外からの引き込みの検討が必要。
インフラ確保に対する時間とコストがかかる。



クリーンセンター跡地の下



通学の利便性に関する定量的評価

生徒にとって最も重要な要素 = 通学の利便性



全49行政区を対象に各候補地までの通学距離について算出



行政区の中心

候補地

表:各行政区の中心から候補地までの道路距離

評価指標	候補地1	候補地2	候補地3	候補地4
平均通学距離(km)	5.02	3.88	4.21	4.67
最大通学距離(km)	10.9	10.3	9.5	10.5
最大距離の行政区	岳	岳	岳	岳
6km超過の行政区数	16	6	7	12
8km超過の行政区数	4	2	3	3



行政区の公民館等

候補地

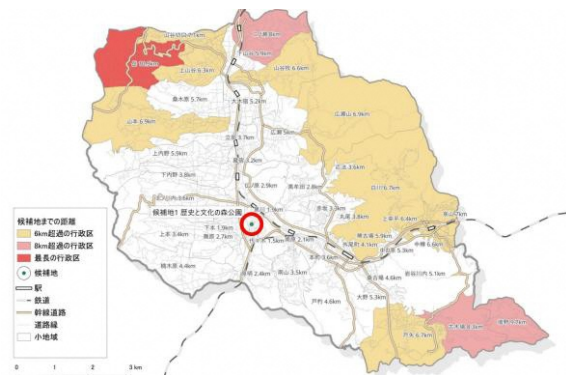
表:各行政区の公民館等から候補地までの道路距離

評価指標	候補地1	候補地2	候補地3	候補地4
平均通学距離(km)	3.6	3.4	3.8	4.0
最大通学距離(km)	8.7	8.3	9.3	9.4
最大距離の行政区	境野	境野	境野	境野
6km超過の行政区数	3	2	6	6
8km超過の行政区数	1	1	1	1

候補地2は平均通学距離が最も短く、国の基準である6kmを超える行政区の数が最小であるなど、**通学の効率性と公平性の両面で最も優れている。**

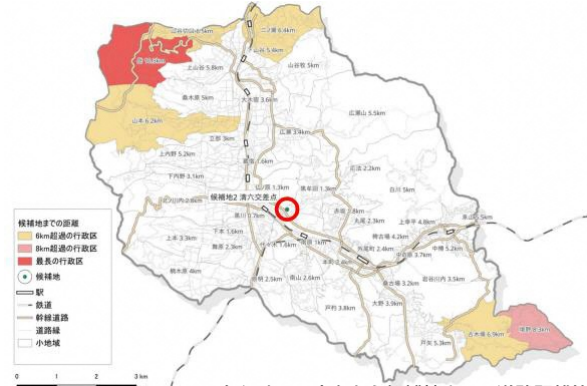
各行政区の距離

① 歴史と文化の森公園



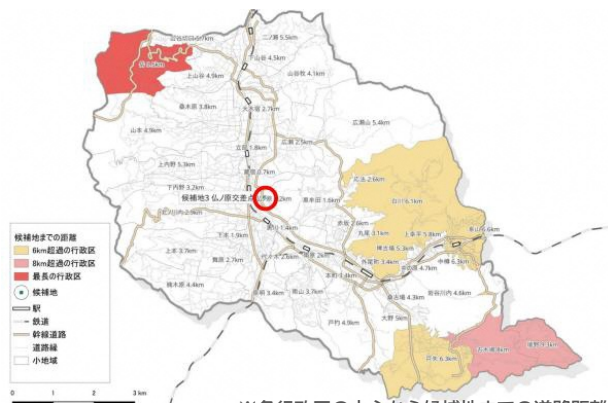
※各行政区の中心から候補地までの道路距離算出に基づく図

② 清六交差点付近



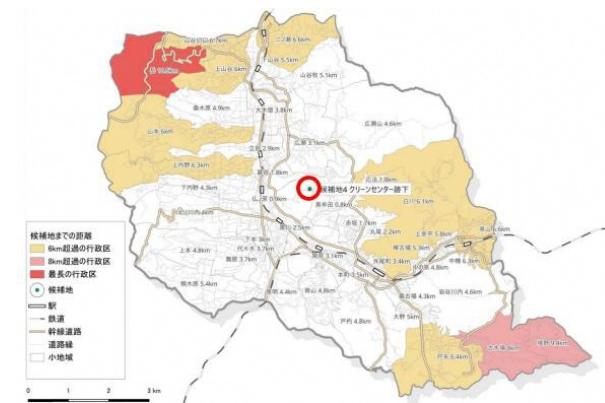
※各行政区の中心から候補地までの道路距離算出に基づく図

③ 仏ノ原交差点付近



※各行政区の中心から候補地までの道路距離算出に基づく図

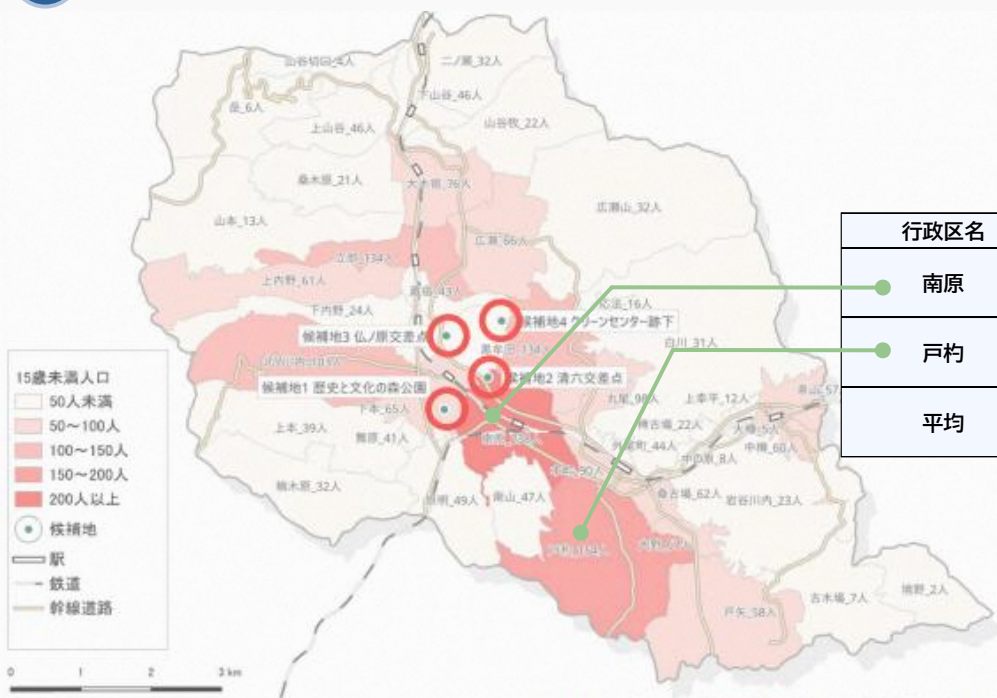
④ クリーンセンター跡地の下



※各行政区の中心から候補地までの道路距離算出に基づく図

通学の利便性に関する定量的評価

15歳未満人口が特に多い行政区(南原、戸杓)からの通学距離



15歳未満人口が150人以上の行政区に着目

表:15歳未満人口が150人以上の行政区と候補地までの距離

行政区名	15歳未満人口(人)	候補地1(km)	候補地2(km)	候補地3(km)	候補地4(km)
南原	238	2.1	1.0	3.10	2.00
戸杓	154	4.6	3.8	4.80	4.90
平均	—	3.35	2.4	3.95	3.45

候補地2

総合評価(利便性)

※人口 令和2年国勢調査 小地域集計より

より多くの生徒にとって利便性が高い

候補地1

候補地2

候補地3

候補地4

通学の安全性に関する多角的評価

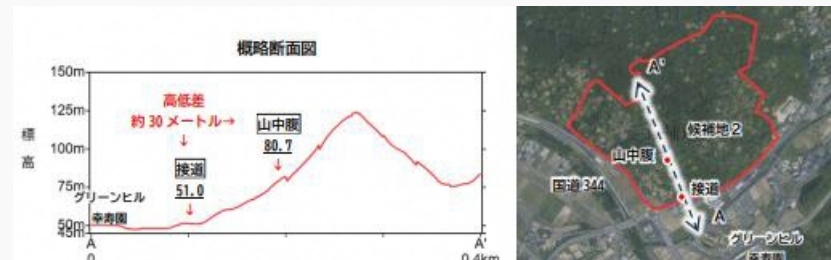
地形リスク

候補地2について

主要道路から敷地までのアクセス経路に存在する
「70-80mの崖のような高低差」

候補地1について

高台にあり、公園入口から敷地まで急な坂道があり
生徒的負担



図：候補地2 概略断面図

交通リスク

候補地3・4について

交通量の多い幹線道路に近接し、大型トラックの往来も激しい

候補地1について

交通量の多い公道に直接面しておらず、安全確保が容易

自然災害リスク

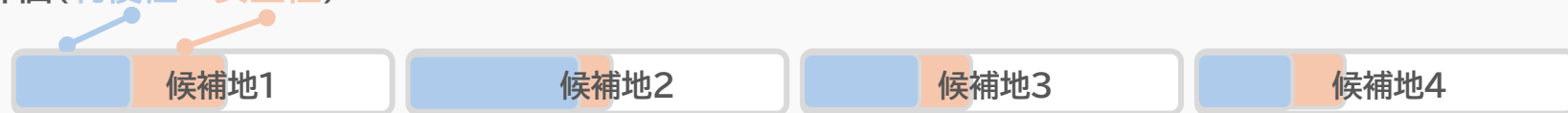
候補地1について

町のハザードマップにおいて、洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域のいずれにも含まれておらず、防災上の安全性が極めて高い

候補地2・3・4について

浸水想定区域や土砂災害警戒区域に近接、または一部が含まれる可能性があり、防災上のリスクが相対的に高い

総合評価(利便性+安全性)



通学の実現性に関する多角的評価

用地取得

候補地1について

すべて**町有地**であり、用地取得に関する時間的・経済的コストや不確実性がなく、**事業の実現性が極めて高い**

候補地2・3・4について

私有地を含んでおり、特に**候補地3**は**大半が私有地**であるため、**用地取得が極めて困難であると想定**

造成の難易度

候補地2について

大規模な造成が必須

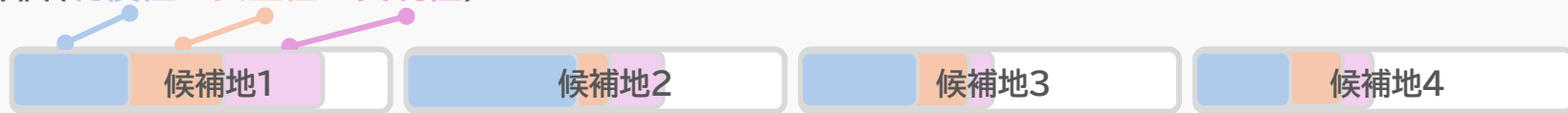
候補地3について

暗渠化工事の問題

候補地4について

地下埋設物の問題

総合評価(利便性+安全性+実現性)



総合評価



利便性



安全性



実現性



周辺環境

表：候補地別 総合評価マトリックス

評価項目	候補地1 歴史と文化の森公園	候補地2 清六交差点	候補地3 仏ノ原交差点	候補地4 クリーンセンター跡下
利便性	可 (B)	可 (B)	可 (B)	可 (B)
安全性	極めて良好 (A)	重大課題 (C)	重大課題 (C)	課題あり (B)
実現性	極めて良好 (A)	課題多 (B)	困難 (C)	困難 (C)
周辺環境への配慮	極めて良好 (A)	課題多 (B)	可 (B)	可 (B)
総合評価	最適候補 (A)	困難 (C)	困難 (C)	困難 (C)

新設統合中学校の建設候補地
「候補1：歴史と文化の森公園」

候補1選定理由

バランスの優位性

「安全性」と「実現性」について他と比較して優位性を持っている。

学校という施設の恒久性や防災拠点としての役割、事業の確実性を最優先や周辺環境への配慮に考慮した場合、総合的なバランスを持っている。

課題の性質

候補1について

敷地の傾斜、出入り口は造成や設計段階の技術的な工夫で克服可能。

候補2・3・4について

用地取得の不確実性、通学路の交通リスク、アクセス経路の抜本的な安全面など技術以外の外的要因が多い。